

図書館ニュース

Vol.32, No. 1(2003.4)

「調べ学習今昔」

—附属図書館長就任の弁にかえて—

高 鷲 忠 美

(1) 私は、優れた学校図書館活動を全校で展開している山形県鶴岡市立朝暘第一小学校によくお邪魔している。この小学校の学校図書館の名称を「致道図書館」という。この名称は、江戸時代この地にあった庄内藩の藩校「致道館」に由来する。「致道館」は、9代藩主酒井忠徳が文化2年(1805)に創設したもので、東北では唯一当時の建物が保存されている。寛政異学の禁(1790)の後、多くの藩が朱子学を藩学としたのに対し、庄内藩は荻生徂徠の提唱する徂徠学を教学とした。致道館での教育が、知識の押しこめを廃して、生徒の資質に応じて長所の伸長につとめ自学自習を重視したのは徂徠学の教えに基づいていると推測できる。致道館の学制は、1.句読所(くとうしょ=今の小学校) 2.終日詰(しゅうじつづめ=中学校) 3.外舎(がいしゃ=高等学校) 4.

試舎生(ししゃせい=大学教養部) 5.舎生(しゃせい=大学学部か大学院)の5段階からなる。年1~4回実施される学業試験に合格すれば年齢や修学年数に関係なく進級できた。句読所では、教師による講義が行われたが、終日詰以上は「自学自習」と「会業」と呼ばれる小集団討議が中心であった。「会業」とは、今の大学のゼミナールのようなもので、助教(教授)を会頭とし、課題と期日を決めて研修の成果を個人ごとに発表し、互いに議論して疑問をただしあい深めようとするものである。会業は従って、自学の成果を基礎としてこそ成り立つ教育



目 次

「調べ学習今昔」—附属図書館長就任の弁にかえて— (高鷲忠美).....	1
イギリス文化の他者表象を読む (大田信良).....	3
本との出会い:「恐竜足跡の探検」へのプロローグ (松川正樹).....	5
BIBLIOfILE41:教育総合データベースの使い方.....	6
お役立ち情報:請求記号の変更について.....	8
お知らせコーナー.....	9
平成15年度前期図書館暦(4月~9月).....	12

方法であり、生徒の積極的自学の成果を重視した。また、天保3年(1832)の目録によれば、致道館には630部、11,000余巻の蔵書があり、司書の管理のもと、生徒に供されていた。

(2)このような自学自習の精神が受け継がれ、朝暘第一小学校では、全教員がほとんどの教科で学校図書館、資料を駆使した授業を行っている。こうしたことが可能になるのも、一つに、様々な手段(朝の読書、教育サポーターによる読み聞かせなど)で子どもたちの読書に対する関心を喚起しており、その結果現在子どもたちは年間一人あたり107冊の貸出冊数を数えることから分かる通り、子どもたちの読書力が高く、図書館の使いこなしがきちんと身に付いていることがあげられる。二つ目に、校長の強力なリーダーシップ(学校図書館を学校経営の中核に置くという)とそれを実務で支える優秀な学校司書の存在、校長と学校司書の間に位置し教員に学校図書館の活用をねばり強く説いた図書館部主任、副主任(現在、山形県は司書教諭を発令していないが、この主任、副主任が実質的に司書教諭の役目を果たしてきた)の存在、そして図書館活用教育を学校組織上きちんと位置づけていることによって支えられている。

今は、特別に学校図書館の役割を強調しなくても、先生方は学校図書館が学校司書のもと機能していれば、いかに自分の授業準備が楽であるかを実感している。調べ学習をやるうというとき、あるテーマについての授業をいつ行うかを学校司書に言えば、公立図書館からもって来たりして、人数分以上の資料をそろえてくれる。水や電気が生活に不可欠のように、学校図書館がこうした教育活動を支えるインフラストラクチャーとしてきちんと機能しているのである。

(3)学芸大学の学生には教師志望者が多い。先に述べたように学校図書館を使った授業では、「生きる力」を培うための「情報活用能力」が欠かせない。子どもたちにこうした能力を身につけてもらうためには、まず教師自らが「情報活用能力」を身につけなければならない。図書館を使い、読書をし、更にはレポートなどを書く体験がないとどうしようもない。学生諸君は、大学生活の中で、「情報活用能力」を是非身につけて欲しい。まず、様々な情報が色々な媒体を介して我々の身の回りに存在する。そのような

情報がどのように生まれ、蓄積されるのか、それをどのようにあり場所を検索できるのか、そして情報の蓄積されている物自体をどのように入手するのか。また、入手した文献(またはインターネット上の情報など)をどのように読み込み、分析するのか。あるテーマについて調査するときは、情報源一つだけでは間違い、ある種の偏りなどが存在する可能性がある。複数の情報源を調査して比較検討することが必要である。そしてそれらを自ら総合し、まとめ、文章化などをしてプレゼンテーションし、参加者と討議を行い、新たな知見を生み出す努力をする。このようなことが身に付いていて初めて大学での自分の研究ができ、それが卒業論文や修士論文につながっていく。当然、社会に出てからもこうしたやり方は役に立つはずである。

ある団体が主催しているコンクールに『図書館で「調べる学習賞」コンクール』というのがあり、最初から審査員として協力している。子どもたちが先生の指導の下、調べたことをレポートとして提出してくれるのだが、それを見ると実は先生が子どもたちにどういう指導をしているのか一目瞭然である。事典などを丸写しで平気な子はそうした指導しか受けていないのであろう。ある著者の文献の一部を写している子で、引用と断っていないのは、先生になぜ引用を明確にして、自分の文章と区別しなければいけないのかを教わっていないのであろう。インターネットで探した情報を、ダウンロードしてそのまま貼り付けている子はどういう指導を受けているのだろうか。逆に、一度先生にきちんとそうしたことを教えてもらった子どもは、実にきちんとルールを守っていることもよく分かる。

学生諸君も教師を目指すのであれば、どうか子どもたちにきちんと教えられるような体験をこの大学生活で是非ともして欲しいものである。

(たかわし・ただよし 附属図書館長)

イギリス文化の他者表象を読む

大 田 信 良

あなたの手元に今 E. M. Forster. A Passage to India. Penguin Twentieth-Century Classics. Ed. by Oliver Stallybrass. Harmondsworth: Penguin, 1989 というテキストがある。『インドへの道』というタイトルで、著者は E. M. フォースターというイギリスの文学者。あなたが目にしているこの本は Penguin Twentieth-Century Classics というシリーズの一冊で、1989年ペンギンという出版社から出ている。出版地は Harmondsworth。著者とは別にこのテキストの編纂者は Oliver Stallybrass。実際に出版されたのは20世紀初頭の1924年、インドがまだ大英帝国の植民地で経済・文化のおよび政治・軍事的にも支配を受けていた時代のことである。

インドといってもこの場合イスラム教徒とヒンドゥー教徒が分離される前のことである。さらに、イギリス帝国主義が関わった地域は、この東インドに限らず、カリブ海の西インドやオセアニア、アメリカ・アフリカ両大陸に及んでいたし、イギリス文化の他者としてみなされるのは、何もこうした植民地だけに限ったわけではない。(ドイツやアメリカ、ロシア等。日本は?)それでもこの小説を手にしたのは、以前にこのテキストが映画化されたものは『インドへの道』デビッド・リーン監督 Thorn EMI/東北新社(発売)、1984としてビデオにもなっている 見たことがあったし、その後翻訳(『インドへの道』E.M. フォースター[著]/小野寺健訳・みすず書房、1995、E.M. フォースター著作集:4)も読んだことがあったからかもしれない。私の友人も、意識的に気づいているかどうかは別として、フォースターのテキストや表象イメージを享受している。彼女はちょっとしたイギリス・マニアでヒュー・グラントという俳優がお気に入りだが、彼が80年代に出演した『モーリス』では「英国貴公子」ブームや「美少年趣味」の流行で盛り上がった(たとえば「他のホームページへのリンクの Yahoo! Japan」で『モーリス』を検索して

みる)。そして、実は、セクシュアリティの問題で異性愛者の他者として表象される同性愛者を主人公にしたこの映画の原作者が、『インドへの道』の著者でもあった。

とにもかくにも、この春休みにたまたま何かのついでに寄った洋書店で買ったのがこ

の小説だったか、いや、もっと簡単にアクセスできるインターネットの本屋さんで注文し届けてもらったのだったか、申請していた学芸大の図書館利用証を受け取る帰りに1F開架のコーナーで見つけて早速借り出したのだったのだろうか。いずれにしても、イギリスにとってのいわば文化的他者であるインドや人種的に異なるインド人を取り上げた英国白人小説家のテキストを、あなたは、すでに読んでしまっている。そして、あなたは、このイギリス文化の代表的なテキストについて何か語りたいという欲望を抱いてしまっている。友達とのおしゃべりで、大学のクラスで。また、何気ない普段の日常会話とはちょっと違った形でのディスカッションやスピーチで。英語でプレゼンテーションしてみたい気も、ちょっとだが、している。

どのような形で言葉に分節化するにしても、そのための材料を收拾し、その上である程度まとまった言説に組み立てる必要があるわけだが、まずは、辞典類にあたってみる。(もちろん端末からインターネットを通じ関連するウェブサイトにもアクセスしてみよう。ペーパーによる情報かあるいは電子情報か、どちらがよいのか。リテラシーをめぐる諸問題は……?とりあえずは、両方やってみよう、と決心する。)学芸大学図書館が所蔵する文学辞典や文学史・文学講座などを1・2Fの開架・辞典類のコーナーで実際に見てみるとか、書庫その他にあるもの



を端末（図書館ホームページ「データベースサービス」の「本学OPAC」）で検索して調べてみる。たとえば、『研究社英米文学辞典』（以下文献書誌情報は一部省略）で Passage to India, A を引くと、主要キャラクターとプロット（あらすじ）が次のようにまとめられている。「インドの民族的覚醒に献身するインド人医師 Aziz は、Ganges 川沿岸の Marabar 洞穴で起こったイギリス Adela Quested に対する暴行未遂事件の犯人として告訴されるが、事件は彼女の過労による妄想に基づいていたことを彼女が認めて落着する。」こうした物語の形式によって主題化されるテーマは何か。同じ辞典によれば、「インド人とインド在住イギリス人との民族的な対立意識、さらにその奥にある東洋対西ヨーロッパの精神的対立」ということらしい。（主要な作家や作品を取り上げた『イギリス文学案内』も参照。巻末に翻訳文献案内もあり。）英語の場合ならば、The Oxford Companion to English Literature を見ればよいだろう。ちなみに、テーマは “ a picture of society in India under the British Raj, of the clash between East and West, and of the prejudices and misunderstandings that foredoomed goodwill ” と前者とほぼ同じだが、プロットの方は、“ The story is told in three parts... ” から始まりより詳しい分析が順序だててなされている。

これだけではあまりに初歩的で自分をあまりにばかにしている、実際にフォースターのテキストを読んで自分が感じたり考えたこととかなり違和感もある、とあなたは思っている。イギリスとその他者インドとの対立がテーマだというのが、なぜそれを具現するのが白人女性と非白人男性なのか（Gender・Feminismの問題）、なぜ両者の対立が暴行未遂すなわち rape という暴力的な異人種間の性交渉をめぐって表象されるのか。著者が男性であることを考えれば、イギリス人男性キャラクターの存在や彼とインド人男性との矛盾を孕んだホモセクシュアリティのテーマを考慮する必要はないのか（Queer theoryの問題）、だとしても、とりあえず、そんな風な理解の仕方がありうる、あるいは、ある特定の社会的・歴史的脈絡の中である種の真理や権威をもって存在しえる、ということは確認できた。イギリスの文学・文化研究に限らず、辞典や概説書等の意味とはそんなものだ。まともな受け取りあがめるのではなくむしろ批判的に検討・吟味することはとても大事。あなどってもいけない。換言すれば、それらを含め様々な研究書や論文によりいくつかの代表的な解釈がどのように

形成されてきており、これからさらにどう再編成されていくのかりサーチしなくてはならない。

まさにこれが次のステップで行う作業であり、あなたは、「フォースター」や「Gender」等をキーワードにして、「OPAC」だけでなく「Webcat」・「外部データベースの雑誌記事索引」等で検索してみることになる。そして、その中から、本学図書館所蔵のものなら早速借り出したり他大学から実物やそのコピーを取り寄せたりして、いくつかの文献を手にして、ちょっと読んでみる。そんなことをいろいろ試みるうちに、あなたは、さらに別の文献を見つけるだろう。また、それらの文献によって共通に言及されている基本的な研究書や論文についての知識も得ることになるだろう。

Further Reading

MacKenzie, John M. Orientalism : History, Theory and the Arts. Manchester: Manchester UP, 1995. (ジョン・M・マッケンジー『大英帝国のオリエンタリズム

歴史・理論・諸芸術』ミネルヴァ書房、2001年.)

Said, Edward W. Culture and Imperialism. New York: Vintage, 1994.(エドワード・W・サイード『文化と帝国主義 1・2』みすず書房、1998 - 2001年.)

Suleri, Sara. The Rhetoric of English India. Chicago: U of Chicago P, 1992. (サーラ・スレーリ『修辞の政治学 植民地インドの表象をめぐって』平凡社、2000年.)

(おたのぶよし 英語学英米文学研究室助教授)

本との出会い

『恐竜足跡の探検』へのプロローグ

松川正樹

ワクワクしながら次のページをめくる。『原人発掘』と言う本を何回読み返してもこの感動は忘れられない。

私は大学に入り化石について知り始めた頃、第二次大戦前、中、後の激動の中国満州で化石をもとに古生物学研究に没頭した日本人学者の化石収集のエピソードや戦乱の陰に国境を越えた科学者の友情、葛藤や情熱が綴られているこの本にすっかり魅せられてしまった。「私もいつか」と。

私は、小学生の頃、蝉やトンボ、ザリガニや魚とり、野球、缶けりなどの外遊びが大好きであった。母親から本を読むことを勧められても、あまり本を読むことはなかった。しかし、なぜか、家や学校にあった十五少年漂流記、ロビンソンクルーソー、トムソーヤの冒険などの冒険ものや、自然図鑑のようなものには面白さを覚えたような気がする。そして、それらの冒険ものや自然図鑑のようなものから、私自身も探検してみたい、絵や写真として示されている風景を直に見てみたいと思ったことを記憶している。

大学院の時に開始した1億年ほど前の関東地方の環境復元のための野外調査、採集した二枚貝化石やアンモナイトなどに関する室内研究は、小学生の頃の外遊び、冒険本の経験や図鑑の風景を直に見るといふ願望を満たすものであったような気がした。私は、博士研究後に恐竜の足跡を日本で初めて発見するという幸運をつかんだ。これを機に、私の研究の興味は恐竜や陸上環境に移行した。1986年の米国でのシンポジウムで知り合ったコロラド大学のLockley博士らとは、その後今日に至るまで共同研究が続くとは夢にも思わなかった。彼と知り合って以来のコロラド高原での恐竜足跡の研究は、足跡研究の「いろは」を学ぶ機会であった。「恐竜ハイウエー」は、ロッキー山脈東端の南北に広がる地層に印された夥しい数の恐竜の足跡が1億年前の海岸平野を南北に移動した「恐竜の道」に私達が見つけたニックネームである。私は、コロラド高原を駆けめぐりデータを

集め、恐竜の移動、年齢、世代、出産時期など誰もが考えつかなかったアイデアを発表し、科学研究の醍醐味を味わった。

東アジアと東南アジアは、恐竜の足跡研究のラストフロンティアまたはラストエルドラドと呼ばれていた。それは、これらの地域では、恐竜の足跡が恐竜時代の最初から最後まで産出するにも関わらず組織的に研究が行われていなかったことによる。コロラド高原に比べ、野外調査や生活環境の不便さは予想されるが、私はコロラド高原での研究経験を基に、1999年から2001年に文部科学省の科学研究費補助金を得て、「恐竜の道」プロジェクトを実施した。《『原人発掘』の舞台で研究ができる！》

日本、中国、モンゴル、米国の専門家とチームを編成し、広大なアジア大陸の東半分を北の黒竜江省から南のタイまで、61地点の恐竜足跡の産地と関連する地域を訪れ、恐竜の足跡化石、足跡化石を産する地層、共存する化石の調査・研究を始めた。「原人発掘」の著者らが調査した遼寧省の群の行動を示す足跡産地や幻の「油田」は、かつては匪賊が出没し、軍隊に守られていたことなどは想像もできないほどのどかである。日中米の研究者が仲良く科学研究の醍醐味を満喫できているのである。2週間のゴビ砂漠の調査後の北京での親父の死と葬式終了の知らせは、多少ガックリ来た。『原人発掘』の著者が米国留学中に長男の死を知り、帰国できなかったことの一文が私の脳裏に蘇り、さらに1ヶ月間続く中国での調査の勇気を与えてくれたのを覚えている。

私は、現在、この調査研究の成果とエピソードに関する現代版の『恐竜足跡の探検』を執筆中である。その著書に刺激される若者によるさらなる発展をと念じて。

私は、現在、この調査研究の成果とエピソードに関する現代版の『恐竜足跡の探検』を執筆中である。その著書に刺激される若者によるさらなる発展をと念じて。
(まつかわ・まさき 理科教育学研究室助教授)



BIBLIOFILE 41

教育総合データベース の使い方

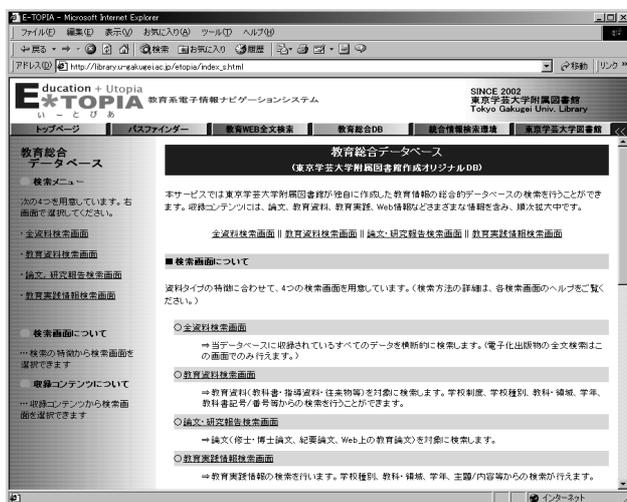
教育総合データベースは、E-TOPIA(教育系電子情報ナビゲーションシステム)のサービスメニューのひとつです。東京学芸大学附属図書館が独自に作成した教育情報の総合的データベースであり、教育資料(教科書、指導資料、往来物等)論文(修士・博士論文、紀要論文、Web上の教育論文)教育実践情報などのメタデータ(*注)を検索することができます。

*注

データに関するデータの意味。図書目録や雑誌記事索引など、情報そのものではなく情報を見つけるための手がかりとなる書誌情報のこと。

アクセスの方法

教育総合データベースにアクセスするには、附属図書館ホームページ(<http://library.u-gakugei.ac.jp/>)の「データベースサービス」>「当館作成コンテンツ」のメニューの中から「教育総合DB(教科書、論文、教育実践等)」を選択するか、E-TOPIA(<http://library.u-gakugei.ac.jp/etopia/>)のトップページから「教育総合DB」を選択します。すると、教育総合データベースのトップ画面が表示されます。



画面の種類

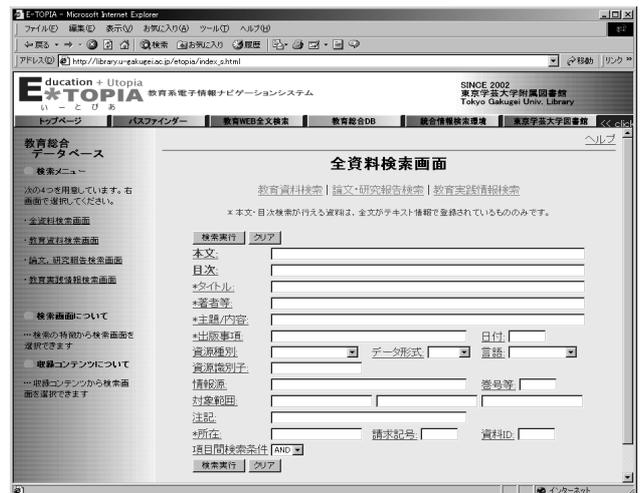
教育総合データベースは、検索する情報の種類によって4つの検索画面に分かれています。それぞれの画面で検索の対象と検索項目が異なります。

全資料検索画面

本データベースに収録されているすべてのデータを横断的に検索する画面です。

本画面には「本文」及び「目次」の検索項目があります。本データベースに登録されている情報はメタデータが中心ですが、一部、本文や目次の全文情報がテキスト形式で登録されているものもあります。その場合には、この画面を使って、当該データの本文・目次からの全文検索を行うことができます。

ただし平成15年3月現在、全文データが登録されているのは、『東京学芸大学五十年史』『図書館ニュース』『共通科目のための読書案内』のみです。



教育資料検索画面

生徒用教科書や教師用指導資料及び往来物(江戸時代から明治初期にかけての寺子屋等で利用された庶民の教科書)を検索することができます。本学が所蔵するものが中心ですが、一部Web上で提供されている指導資料等も収録しています。

収録情報はメタデータが中心ですが、往来物のうち約900件については、全文の画像情報を見ることができます。また、Web資料のメタデータにおいては当該資料のURLが表示されており、リンクをたどって資料本体を画面から直接見ることができます。

タイトルや出版社等のほか、「検定年」「教科・領域」「学校種別」などの項目から検索することができます。

論文・研究報告検索画面

本学の修士・博士論文、紀要掲載論文のメタデータを網羅的に検索することができます。一部、Web上で提供されている教育関係論文のメタデータも収録しています。

教育実践情報検索画面

本学の附属学校・園の教育実践記録を掲載した論文及びWeb上で提供されている教育実践情報等のメタデータを検索することができます。

「教科・領域」「学校種別」「学年」などの項目から検索することができます。

教科書、指導書の検索

教育総合データベースで検索できる情報のうち、生徒用教科書や教師用指導書をピックアップし、検索の方法を具体的に説明します。

本学では明治期以来の教科書や小・中・高等学校で使用されている現行教科書、指導書約8万冊を所蔵しています。教育総合データベースを利用するとそれらを網羅的、体系的に探すことができます。

教科書、指導書を検索するには、「教育資料検索画面」を選択します。

教科書、指導書の検索では、タイトルや著者からの検索のほか、「教科・領域」「学校種別」「学年」「検定年」「教科書記号/番号」などのコード情報からの検索が重要になります。

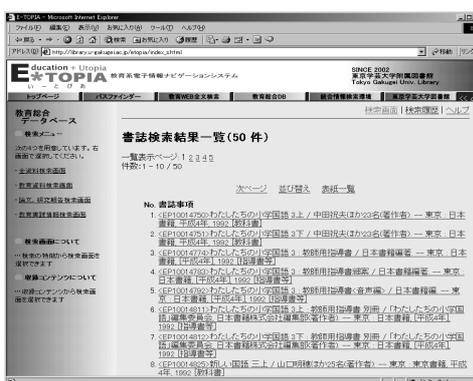
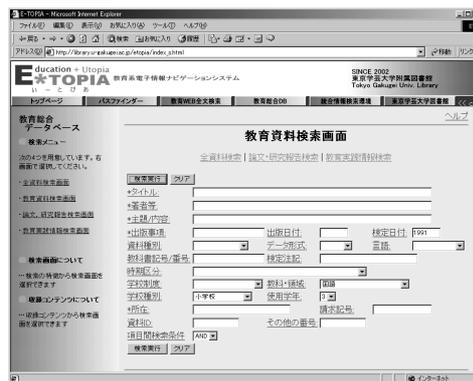
例1 平成3年(1991年)文部省検定済の小学校3年の国語教科書を検索したい。

教科・領域：プルダウンメニューから「国語」を選択します。

学校種別：プルダウンメニューから「小学校」を選択します。

使用学年：プルダウンメニューから「3」を選択します。

検定日付：「1991」と入力します。西暦4桁で指定します。



例2 明治後期から昭和前期までの国定教科書期に尋常小学校で使用された「唱歌」の教科書を検索したい。

時期区分：プルダウンメニューから「国定教科書期(1903/明治36年～1945/昭和20)」を選択します。

学校制度：プルダウンメニューから「尋常小学校」を選択します。

*「学校制度」は日本国内で歴史的に存在した学校制度あるいは海外の教科書の国名等を区分するものです。「学校種別」とは異なります。

教科・領域：プルダウンメニューから「唱歌」を選択します。

終わりに

「教育総合データベース」は、名前のとおり、さまざまなタイプの教育情報を蓄積した総合的なデータベースです。今後はメタデータのみでなく、論文や教育実践記録等の全文情報を登録し、さらに充実したデータベースに育てていきたいと考えています。

皆さんの研究・学習にご活用ください。

(村田輝 情報管理課目録情報係長)

お役立ち情報

請求記号の変更について

昨年末から、書架にオレンジ色のラベルを貼った本が並び始めているのに気づかれた方も多いと思います。ラベルの色だけでなく、ラベルに記された請求記号も少し変わりました。オレンジ色のラベルが新分類、無地のラベルおよび紺色のラベルが旧分類の請求記号をつけた資料です。

「請求記号って何?」という人のために少し説明させていただくと、請求記号は、主題を表す分類記号と、同じ分類記号の資料をさらに順序付けるための図書記号からできています。図書館の資料はこの請求記号の順に並べられているので、本を探す時に大きな手がかりになるものです。OPAC(利用者用オンライン蔵書目録)を検索すると所蔵データに請求記号という項目があります。「369.4 / KAS」とか「141.2 / To67」とか表示されているのがそれです。オリエンテーションなどで「OPACで目的の本を見つけたら、書名、著者名だけでなく、請求記号もメモして...」とお話しているのは、請求記号が図書館の資料にとって住所のような役割をしているからなのです。

ところで、附属図書館では分類記号(請求記号ラベルの一段目、主題を表している数字)を決めるためのよりどころとして、長い間「日本十進分類法新訂6-A版」(以下「新訂6-A版」)を使ってきました。「新訂6-A版」は1951年に刊行されたものですが、学術、社会の変遷に伴って生じる新しい主題には、部分的な修正を加えることによって対応してきました。

このたび「新訂6-A版」から最新版である「新訂9版」に切り替えることになりました。新分類では、分類項目が詳しくなっているほか、新しい概念や主題に添った適切な分類記号を付けられるようになっています。日本十進分類法の大きな枠組みに変わりはありませんが、若干の変更点がありますのでご注意ください。

特に、情報科学関係の資料は「401.1~401.6」から「007」に分類記号が変わっています。今後、新しく受け入れる資料は新分類の請求記号を付けて配架されますが、しばらくの間は両方の書架をご覧ください。

新分類の請求記号

オレンジ色のラベル

369.4	日本十進分類法新訂9版による分類記号
KAS	図書記号 (アルファベット大文字2~3文字)

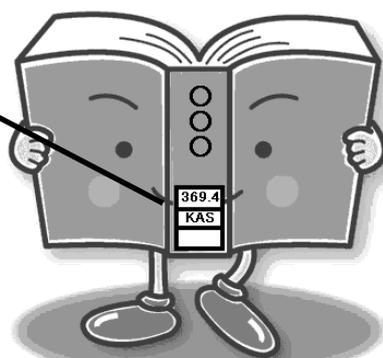
旧分類の請求記号

紺色のラベル

日本十進分類法新訂6-A版を基に
修正を加えた分類記号

図書記号
(アルファベットと数字の組合せ)

141.2
To67



(情報管理課収書係)

お知らせコーナー

平成 15 年度図書館オリエンテーションの実施について

平成 15 年度の図書館オリエンテーションを以下のとおり開催します。

新入生のための図書館オリエンテーション

4月14日(月)～18日(金)までの5日間、表のとおり実施します。

館内をツアーしながら、利用方法について40分程度で説明します。図書館を知るチャンスです。申込みは不要ですので、ぜひ参加しましょう！

	10:30 ～11:10	14:30 ～15:10	16:10 ～16:50	18:00 ～18:40
14日(月)				
15日(火)				
16日(水)				
17日(木)				
18日(金)				

文献の探し方オリエンテーション

前期5月13日(火)～7月23日(水)、後期10月21日(火)～11月28日(金)まで開催します。

5月

開催日	火	水	木	金
初級	13日	14日	15日	16日
中級	20日	21日	22日	23日
初級	27日	休館日	29日	30日

6月以降についても隔週ごとに、初級・中級を繰り返します。

開始時間は各日とも10時30分からで、60分程度で文献の所蔵調査や主題調査、入手方法について説明します。

各回とも予約制です。附属図書館2階の参考調査カウンター(TEL:042-329-7223)に申し込んでください。なお、不明な点や、開始時間等のご希望については参考調査係にお問い合わせください。

TEL:042-329-7223、e-mail:libref@u-gakugei.ac.jp

図書館のサービス紹介

閲覧係(1階カウンター)の紹介

閲覧係は、図書館1階のカウンターで、図書・雑誌の貸出し、返却の仕事をしています。図書館の利用証の手続もこちらです。図書や雑誌を借りるときは、借りたい本と利用証を貸出用パソコンの所に持ってきてください。無断で本を持ち出そうとすると、ゲートでブザーが鳴りますので気をつけてください。

1階には約8万冊、地下書庫に約30万冊の本があります。書庫の本も一部を除いて、貸出・閲覧できますので、カウンターで請求してください。教職員・大学院生は書庫に入れますが、3年生以上の学部生や研究生等も、申請すれば入庫できますので、詳しくはカウンターで聞いてください。

図書館は、平日で平均約2,000人ほどの利用者がいます。静粛な環境作りのために、館内では飲食や、私語、携帯電話の使用をやめてください。また、みんなで使う本ですから、書き込みや切取りもやめましょう。皆さんが快適に図書館を利用していただけよう、私たちもお手伝いしますので、何でも、ご意見、ご質問お寄せください。お待ちしております。



1階カウンター職員

参考調査係・相互利用係（2階カウンター）の紹介

2階カウンター職員



参考調査係の紹介

Q：どんなサービスをしているの？

A：参考調査（レファレンス）や情報リテラシーサービス、視聴覚資料の提供をしています。

Q：それってどういうこと？

A：資料の探し方や事項調査、利用方法についての相談にのっています。

Q：具体的にはどんなことを教えてもらえるの？

A：本学OPACの使い方から雑誌記事検索まで、利用者のニーズに合わせて回答します。

Q：何でも教えてもらえるの？聞いて怒られたりしない？

A：親切な対応は心がけていますが、授業の演習問題やクイズの解答などには答えられませんよ。

Q：検索の講習会ってないんですか？

A：あります。図書館ニュースやホームページでお知らせしますが、スケジュールの合わない人は二階のカウンターに相談してください。

Q：視聴覚資料について知りたいんですが。

A：視聴覚資料は、音楽関係のCDや映画・芸術鑑賞・紀行のビデオ、音楽・映画のLD、社会問題などのDVDがあります。利用時間は9時～17時までで、授業や教育実習に利用するときに貸出しをしています。そのときは利用申請書に指導教官の印が必要です。

Q：もっと簡単に手続できないんですか？

A：ご迷惑をおかけしています。利用時間・利用方法については今後検討していきたいと考えています。

相互利用係の紹介

Q：「相互利用」とは？

A：どんな大きな図書館でも、利用者の求める資料をすべて揃えることはできません。そこで自館に無い資料は、図書館どうしが相互に協力して利用します。

Q：具体的には？

A：学外の図書館からの複写文献や図書の取り寄せ・学外の図書館に出かけて利用する時に必要な紹介状の発行をします。また学芸大からも、学外の図書館へ向けて（時には海外へも）多数の文献を提供しています。

Q：費用はかかりますか？

A：取り寄せには郵送料などの実費がかかります。相手館によりませんが、複写文献は10ページの論文なら300～400円、図書の取り寄せは、普通の重さの本なら1冊1200円くらいが目安です。（は学芸大の図書館内での利用のみ）多くは1週間以内に届きますが、種々の理由で遅れる場合もあります。

Q：利用者には注意してほしいことは？

A：学芸大の図書館で利用できるものは取り寄せません。NACSIS Webcatや本学OPACなどのオンライン目録でまず調べてください。また、文献の記載は正確をお願いします。調査・確認が必要になると取り寄せが遅れます。

Q：最後にひとこと

A：ホームページでの24時間申込み受付・文献到着時のメール連絡を開始予定です。学芸大の図書館を窓口、広大な文献の世界を上手に利用してください。また時には、よその図書館へ出かけるのも良い刺激が得られることでしょう。

『共通科目のための読書案内』について

図書館では『共通科目のための読書案内』を本年度も発行しました。これは履修する共通科目の手引きとして、シラバスと併せて使用するだけでなく、これからも皆さんの読書生活のガイドブックとしても役立つものです。掲載されている図書は図書館にほぼ備え付けていますので、ご利用ください。

なお、図書館ホームページにも『共通科目のための読書案内』を掲載しています。

図書館の利用にあたって

皆さんが気持ちよく利用できるように、次の点に注意してください。



館内での飲食は禁止されています。

害虫被害のもとになります。
館内には飲食物を持ち込まないでください。

携帯電話はマナーを守って。

図書館に入るときにはマナーモードにして、
通話するときは外に出るようにしましょう。



貴重品は常に携帯してください。

盗難防止のため、席を離れる時間がわずかでも、
貴重品は身につけてください。

館内では静かに。

閲覧席でのおしゃべりはもちろん、
共同学習室の中の声も思っているより響いています。



近隣3国立大学の図書館に学生証で入館できます！

東京外国語大学・東京農工大学・電気通信大学の各附属図書館が、平成15年4月1日から学部学生も学生証で入館できるようになりました。館内閲覧・文献複写のサービスを受けられます。

これは学習及び教育研究活動の向上のため、図書館相互利用の推進を目的として、本学を含めた4大学附属図書館間で相互利用協定が結ばれたことによるものです。

通常、他大学の図書館を利用するためには本学附属図書館の発行する紹介状（閲覧依頼状）が必要ですが、近隣3国立大学については紹介状が不要になります。

*教職員・大学院生の国立大学附属図書館の利用は、従来から紹介状は不要です。

